

# 地域に密着して人々の健康を支える医師を顕彰「赤ひげ大賞」創設



## 「かかりつけ医」の活躍に光

健康な暮らしを支え、住民に頼りにされている地域医療。超高齢化社会が到来するなか、その重要性はますます増している。全国各地の医療現場で、街づくりに寄り添った活動を行っている医師を顕彰する「日本医師会 赤ひげ大賞」(主催・日本医師会、産経新聞社/後援・フジテレビジョン、BSフジ/特別協賛・ジャパンワクチン)が創設された。

賞創設の意義や地域医療への期待について、日本医師会の横倉義武会長とジャパンワクチンの長野明社長に聞いた。

「赤ひげ大賞の設立意義と狙いを紹介ください。」

横倉 高齢化が進み、生活の場と医療の関係はより重要になってきました。日本医師会は「かかりつけ医を持ちましょう」という運動を展開してきましたが、地域住民の生活を支えるかかりつけ医という存在は今後ますます重要になると考えます。

そこで、住民が安心して生活できるように寄り添った活動を長年にわたって行っている医師、すなわち過疎地や山間地域で住民を支えている医師、障害者や高齢者が安心して暮らせる

ような活動を行っている医師、学校保健や公衆衛生活動を通じて住民の健康管理に携わってきた医師などの活躍に光を当て、地域の皆さまとより良い生活環境の構築に向けがんばっている姿を広く知ってもらおうと「赤ひげ大賞」を創設しました。

「ジャパンワクチンには特別協賛になっていただきました。」

長野 ジャパンワクチンは「力をあわせて、未来を守る」をコーポレートスローガンとしています。ワクチンで一人でも多くの日本人を感染症から守りたいという強い思いで今年7月に会社を設立しました。

「力をあわせて」という言葉の意味するところが、赤ひげ大賞の対象となる医師の気持ちと共通するところがあると考えました。

地域医療の充実には長年取り組んでこられた医師に光を当てることが苦勞を分かち合い、その重要性を国民に幅広く知ってもらい地域医療の充実や理解を促さなければなりません。とを期待します。特別協賛できたことを光栄に思います。

「いま、地域医療はどのような状況にあるのですか。」

横倉 人口が減少する中で、地域医療を守るためにはがんばっている医師がたっさんいます。しかし最近では、大都市周辺でも十分な医療提供

が困難となっていることが顕在化してきています。例えば、大都会は昼間と夜間とで人口に大きな差があることと、その周辺地域の急速に進化する高齢化など、それぞれの地域ごとにどのような医療を提供しているかという問題があるのです。

地方でも大都会でも住民に必要な医療を提供できる体制を作っていく必要は変わりません。健康に不安があった場合、かかりつけ医に相談できる体制を全国すべての地域で作る必要があると思います。

個別の事例でいえば、最近はお産がなから子育てしている人も多く、仕事を抱えている最中に子供が病気になるという状況があります。地域によっては「病児保育」という病気がない子供を預かるよう努力していき、しかし、それは全国どこにも

あるわけではなく、地域差がはじまっています。このように地域の事情に合わせて、必要な医療体制の整備をもっと急がなくてはと思っています。

「医師が1人しかおらず、昼夜を問わず年中無休で診察にあたり、このケースもあると聞きます。医療現場を守ることに難しくなっている地域もありますね。」

横倉 例えば、離島です。福岡県玄界島の場合、診療所が1つあるだけで、継続して医療提供することが困難なため、県内から医師が交代で応援に行く仕組みを作っています。

また、離島では耳鼻科や眼科になかなかかかりにくく、住民が船に乗って都市部へ出かけなければならぬという状況があります。そうした現状をなくするため、長崎では夏休みを眼科医と耳鼻科医が島に行き、集中的に治療するといったこと

もしています。

「地域医療といえば、新型インフルエザ流行の際、迅速にワクチンが届けられた、地域の医療機関がいち早く対応できたことが患者拡大を防ぐ大きな力となりました。」

長野 2009年の新型インフルエザ対策では、国内生産体制が十分だった反省があります。国内メーカーは十分生産できず、政府が一部を輸入しました。

そうした中で、特に貢献されたのは全国の医師と医薬品卸会社でした。医薬品卸の「毛細血管流通」と呼ばれるきめ細やかなネットワークが生かされたのです。東日本大震災のときも医療関係者の皆さんとともに、医薬品卸会社が大きな活躍をされたのですが、製薬会社と医薬品卸会社の双方がいて、地域医療への貢献ができるのではないかと考えています。

現在は、2009年の流行の際の経験を生かし、厚生労働省も重要施策として製薬会社と医薬品卸会社と連携し、全国に迅速供給できる流通体制を一層強化しました。さらに、危機管理のための予防ワクチンや抗インフルエザ薬の備蓄体制も整備されました。

今後の予防医療は

長野 新型インフルエザの経験

「予防医療はまだ十分に理解されていず、難しいと思います。」

長野 私は、疾病予防が今後の医療の中心になると考えています。感染症予防は1人を守るだけでなく、周囲の人々、さらには社会や国を守ることに繋がります。

欧米で当たり前に使われている子供へのワクチン接種を、いかにタイムラグなく、安心して接種していただくようにするかが、メディアやジャパンワクチンの大きな役割だと思っています。

そのうえで、医師を中心とした医療関係者、行政、保育園、幼稚園、学校、そしてジャパンワクチンなどが連携して理解を促していくことが大切だと思います。

日本医師会 赤ひげ大賞

日本医師会と産経新聞社が共同で、地域に密着して人々の健康を支えている医師の功績をたたえて広く国民に伝えるとともに、次代の日本を支える地域医療の大切さをアピールする事業として平成24年に創

設。全国の都道府県医師会から推薦された「地域住民の健康を支えている医師」「離島や過疎地域での活動など地域の現場医療に貢献した医師」から、毎年1回、年間5人を選考委員会で選定し表彰する。

江戶時代の小石川養生所を舞台に庶民の人生模様と赤ひげと呼ばれる所長、新出去定(三船敏郎)と青年医師、保本登(山本三郎)の心の交流を描いた映画「赤ひげ」(1965年公開、監督・黒澤明、原作・山本周五郎『赤ひげ診療譚』)にあやかって名付けられた。



〈よこくら・よしたけ〉 昭和19年8月9日生まれ、久留米大医学部卒。平成18年、福岡県医師会会長に。22年から日本医師会副会長を務め、24年から現職。



〈ながの・あきら〉 昭和23年6月27日生まれ、東京理科大学薬学部卒。昭和47年、第一製薬(現第一三共)入社。第一三共専務執行役員などを経て、平成24年7月から現職。

対談 横倉義武 日本医師会会長

長野明 ジャパンワクチン社長

司会 河合雅司・産経新聞社論説委員

「これからの地域医療に期待することは何ですか。」

横倉 地域の住民に寄り添うのが一番のポイントだと思います。赤ひげの誕生のときから、亡くなるまで、人生の節目で医療が必要になります。その中で予防のための健康診断、病気になるための保健指導、病気にしないための健康維持、病気にした後の治療、病気を一緒に乗り越えるための勉強を一緒にする。そういう役割が今から非常に大切だと思います。

そのためには、地域のネットワーク、病気の診断治療のみならず、健康を守る、病気になる予防的なさまざまな活動をする、ということが非常に重要だと思います。

例えば、学校医として、地域の小学校や中学校、高校でがんばってお

られる医師もいます。その中で、生活の習慣をよくしたり、運動の必要性を説いたり、しっかりとフォローしていく必要があります。今、心配なのが東日本大震災の被災地で子供たちの運動量の少なさです。一部では仮設住宅などによって、学校のグラウンドを使えない地域もあります。そのようなところでは室内でも運動をするようにしていく必要があります。最近では、運動よりゲームで遊ぶ傾向が指摘されています。本来のほかに出て、健康な生活をすることが大事です。

「地域活動の中心的役割を担っている医師も多岐にわたりますが、健康運動の教室を開いたり、体力増強のためのグループを作ったり、合唱団をやったりと、地域

の力を向上させる活動をしておられる医師もいます。そのようなネットワークができること、その地域で病気になる人も少なくなるのではないのでしょうか。今は「個」を非常に大事にする時代ですが、地域でお互いに助け合う力をつけることは重要だと思います。また、在宅の患者さんの長寿のお祝いには花火を上げて家族と一緒に喜びを分かちあうといった活動を続けている医師もいます。地域

の開業医が、そうした取り組みの中心的役割を担うのは、とてもよいことだと思います。

「製薬会社としては今後の地域医療をどう支えていかれますか。」

長野 先日、黒澤明監督の映画「赤ひげ」を久しぶりに観ました。地域医療は患者の家族、地域のみなさん、政府、自治体、医師を助ける医療従事者、われわれ製薬会社や医薬品卸会社など、さまざまな人々の連携が必須だと感じました。そこに「赤ひげ」という中心人物が存在することが必要だと思います。

「地域医療の充実には、地域の総合力が必要というわけですが、横倉 地域ごとにいろいろ違いがありますが、それぞれの地域力を高め、みんなで夢の持てるような地域にして

## 「先生一人ではないですよ」

「先生一人ではないですよ」

こんな疑問はありませんか?

生まれたばかりの赤ちゃんには免疫があるの?

ワクチンで、どんな病気が防げるの?

赤ちゃんと一緒にかかりやすい感染症って?

ワクチンにはどんな種類があるの?

ワクチンスケジュールを上手に管理するには?

ラブベビ.jp

LovesBaby.jp

ラブベビ.jpは、みなさまの疑問にお答えします。

「ラブベビ.jp」は、赤ちゃんがかかりやすい感染症とワクチンに関する情報が満載のPC&ケータイサイトです。いつでも気軽にアクセスして情報を集めましょう。ワクチンのなかには、接種できる期間が限られているものもあるので、特にもうすぐママ・パパになる人は要チェック!

主なコンテンツ

- ワクチン接種スケジュール表
- ロタウイルスワクチン接種期間チェック
- 感染症&ワクチン情報
- ケータイ母子手帳

検索

ラブベビ

パソコンから

http://LovesBaby.jp/

携帯電話から

http://LovesBaby.jp/mobile/

ジャパンワクチン株式会社は、日本医師会「赤ひげ大賞」へ特別協賛しています。

力をあわせて、未来を守る

gsk GlaxoSmithKline グラクソ・スミスクライン株式会社

第一三共株式会社